

こんな本を読んできました

文房具の世界はとても深くておもしろい！

紙には「紙の目」と呼ばれる進行方向がある？

鉛筆の「HB」って何の略？

普段何気なく使っている文房具ですが、実は知らないことがたくさんあって驚きます。

この本を見たあとで文房具を使うときは、そのひとつひとつをじっと眺めてしまいそうです。

文房具好きな人は、ノートや手帳にシールなどを自分なりの使い方を見つけて楽しんでいたりしますよね。ペンを買うときは何種類も試し書きをして書きやすいものを見つけて買う。

そんな経験のあるあなたは、もう文房具好きの仲間入りをしているかもしれません。

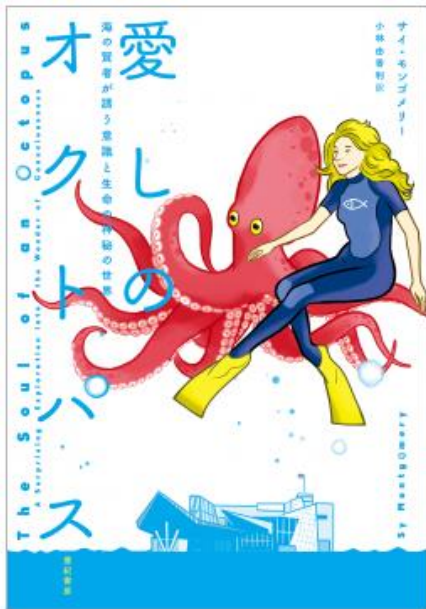
今まで「使えればいい」と思っていた文房具にとっても愛着がわいてくる本です。



タイトル	文房具 16人の手帳・ノート・文具の楽しみ × 女子の新定番 × 基礎知識
著者	暮らしの図書館編集部／編 高木 芳紀／監修
出版	翔泳社



呉市の歴史と関わりの深い「海」に関する所蔵資料を紹介します。



海の文庫

タイトル	愛しのオクトパス 海の賢者が誘う意識と生命の神秘の世界
著者	サイ・モンゴメリー／著 小林 由香利／訳
出版	亜紀書房

人間と全く異なる体の構造を持ち、頭が良いと言われるタコという存在に、新たな世界に触れることができる予感を抱いた著者は、水族館の水槽や樽の中で漂うタコたちと出会い、見つめあい、直接肌でタコたちの体とふれあい、悲しい別れも経験します。そして苦難の末、海に住むタコにも会いに行きます。

タコの力の強さ、産卵後の様子、逃げ出し方など、生態のことがわかるだけでなく、タコたちがそれぞれ持っている個性や感情を知ることができて驚かされます。著者とタコたちとの静かなふれあいの様子がなんともロマンチックに描かれていて、読んでいてそれが人とタコのふれあいだということを、一瞬忘れてしまいます。

水族館の職員やボランティアスタッフとの交流や、合間に出てくるほかの海の生き物たちのお話も心温まるものがあり、愛にあふれた一冊です。